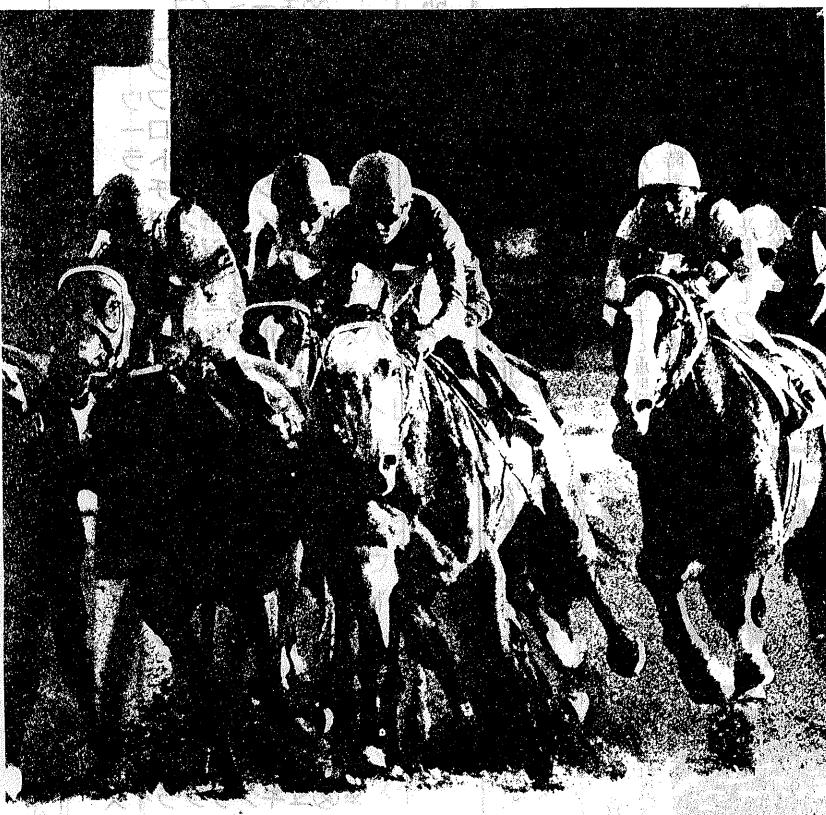


1990年度★ワントップ決定

●1990年のフリーハンデは、美浦、栗東、本部の9人のハンデキャッパーが討議の末、4歳馬、5歳以上、短距離、3歳馬の4部門が別表のように決定した。

4歳馬

メジロマックイーン61キロ。パクタ
イセイ、ホワイトストーン、メジ
ロライアンは並べて60キロ。



90年の4歳GIレースを眺めると、3年連続して勝ち馬がすべて異なるという結果に終わってしまった。こういう形になると本来は見どころがなくなってしまうものだが、今年は秋になつても牡馬戦線が盛り上がり、菊花賞後のジャパンカップでホワイトストーンが日本馬最先着の4着、有馬記念ではメジロライアンが3番人気で2着、ホワイトストーンは1番人気で3着と、4歳馬の健闘が目立つた。しかも年間を通して活躍したこの2頭に加えて、アイネスフウジン、メジロマックイーン、ハクタイセイのタイトルホースもいて、牡馬の上位陣の層は厚いということ、意見はまとまっていた。

それではレベルはどうなのかと話は進むのだが、やはりその物差しとなるのがダービー馬アイネスフウジンだった。ダービーのレコード勝ちをどう評価するかで、今年はレコードが続出したように良好な馬場状態がかなり影響しているという意見や、能力を出し切ってその時計で走っているのだから文字通りの評価をすべきであるという意見、そしてアイネスフウジンの勝ちっぷりはカブラヤオーに匹敵するという意見も飛び出した。

そんな中で一致したのは、ダービーを勝ったという事実を素直に評価しな

(ハンデキャッパー)
栗東トレーニング・センター
甲佐勇、滝澤勇、西田研、尾関道春
美浦トレーニング・センター
吉田武徳、朝日眞道、石野明、甲斐真
本部審判部
岡部龍文

'90年のフリーハンデ

4歳馬

63	アイネスフウジン
61	②メジロマックイーン
60	④市ハクタイストーン
58	④メジロライアン
57	*アグネスフローラ
56	アズマイースト
55	*エイシンサンニー
54	*キヨウエイタップ
53	④市ツルマルミタオー
52	④キーミノブ
	ユートジョージ
	*④ケリーバッグ
	市コガネタイアロー
	ホワイトアトラ
	メルシーアーチ
	ロングアーチ
	ウイナーズゴールド
	*カツノジョー
	ゴーサイン
	センターショウカツ
	ツルマイアスワン
	*トウショーハヤブサ
	ナリタドモアス
	モサクサキ
	デイルデーバル
	アサクローボリミトビー
	イグレーン
	スイートルビ
	二ホンビトウシ
	ノーマニ
	アサクローボリミトビー
	スイートルビ
	二ホンビトウシ
	又エボノ
	ハシノケンヤト
	ヒタカハヤ
	ユキノサンライズ
	(計37頭)

くつではないということだ。トップハンデに置くことに異論はなく、昨年のダービー馬ウイナーズサークル（62*）よりもランクは上、過去のダービー馬でいえばメリーナイス（63*）やサクラチヨノオー（63*）と同等か、それ以上の評価をしなくてはならないと、一部には64*という説も出た。しかしそれにはタイトルが2つは欲しいとの声も強く、63*ということで確定した。

それよりも議論はホワイトストーン、メジロライアン、メジロマックイーン、ハクタイセイをどういう序列で並べるかで白熱した。古馬と五角の競馬をして秋の健闘を踏まえて、ホワイトストーンとメジロライアンを上位に置けるのではないかという意見もあつたが、結果的にはG Iノンタイトルということがで、まず見解が分かれた。

しかし現実に菊花賞でホワイトストーンとメジロライアンを負かしているか、年間を通しての活躍を評価するかで、また見解が分かれた。2番手評価は決まった。が、問題は何にするか。秋の上がり馬といつても、意見が大勢を占めた。過去の皇月賞馬

新聞杯2着の後、京都新聞杯、菊花賞を連勝して62*。対するメジロマックイーンの重賞実績は菊花賞だけで、一昨年のスープリームクリークと似たパターンになる。ただし負かした相手と重馬場ながらの好時計を考えると、4歳時の比較ならスープリームクリーク（61*）より若干優っていると認識しつつ、同じ61*。ということことで決着を見た。

ホワイトストーンとメジロライアンに関する話題は、直接対決がメジロライアンの3勝1敗と、このことから1*の差をつけてもいいのではとの意見も出された。しかしホワイトストーンのジャパンカップでの日本馬最先着を評価すれば2頭は同ランクが妥当。メジロマックイーンより1*軽い60*。しかし焦点はハクタイセイをどう扱うかに移

を見ると、ヤエノムテキが61*、ダイナコスモスが60*、ドクタースパートが59*。ということからも、ようやく3頭横並びの60*という評価で一致した。

今年の4歳牡馬の最大の特徴は、上のものが高いとはいはず、アグネスフローラだけが突出していたという意見が多く出た。そのアグネスフローラにしても、かつてのメジロラモースやマックスビューティには及ばない。故障するまでの成績が桜花賞1着、オータス2着と昨年のシャダイカグラ（59*）と同じことから、59*にするか58*にするかがポイントとなつた。しかしシヤダイカグラはエリザベス女王杯で故障するまでにローズSを勝っているが、アグネスフローラは秋シーズンに活躍できなかつたということで58*で意見がまとまつた。

牝馬で問題となつたのは2頭のタイトルホース、オーフス馬エイシンサンとエリザベス女王杯馬キヨウエイタップである。揃つて安定味に欠け、とりわけエイシンサンニーはオーフス後の成績があまりに芳しくない。そのためキヨウエイタップがアグネスフローラから2*軽い56*、エイシンサンニーはそこからなお1*軽い55*。という意見も出された。しかし重賞勝ちの数からいえばともにG IとG IIを一つずつ、しかも2頭は着順はともかく有馬記念でほとんど差のない競馬をしていることからも、56*で同等の評価となつた。なお、以下の馬については、別表をご覧いただきたい。



アイネスフウジン

5歳以上総合

オグリキヤップは89年の強さに比べると2キロ減。'90年の強さにスーパークリークと並べる。

オグリキヤップ、イナリワン、スーパークリークの上位三強が史上まれに見るハイレベルな激戦を繰りひろげた昨年に比べて、'90年の古馬戦線が、いささか寂しいものに終始したことは出席者の一致した見解であった。

天皇賞(春)、安田記念こそスーパークリーク、オグリキヤップが強い勝ち方を見せたが、宝塚記念におけるスーパークリークの出走回避、秋のGⅠ戦線におけるイナリワン、スーパークリークのリタイア、オグリキヤップの不調、オグリ・スパートという二大スターのホースはついに本年は相まみえることはなかつた。そして、例年なら古馬の中心勢力となる5歳馬の低調ぶりも目についた。GⅠウイナーとなつたのは宝塚記念のオサイチジョージのみ。そのオサイチも秋のレース振りには余り見るべきところがなかつた。結局、

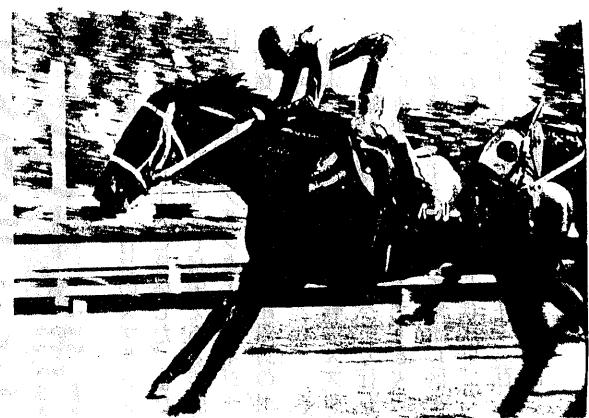
最後の有馬記念でも、6歳馬対4歳馬」という図式を、5歳馬は崩すことができなかつた。三強の時期をずらしてのリタイア、不調、5歳馬を中心とした新興勢力の台頭が見られなかつた。以上の2点が、今年の古馬戦線が当初の期待に比べて低調であった要因であろう。

その中で唯一、GⅠレースを2勝安田記念(有馬記念)したオグリキヤップをトップハンデに置くことで委員の意見は一致したが、以下2つの点で、2時間にも及ぶ議論がなされた。

①オグリキヤップとスーパークリークの並びをどうするか? (同じハンデを2頭に与えるか、スパートをオグリの1*下に置くか)

②実績よりも実力を評価して65%を与えた昨年のオグリに対し、今年のハンデをいくつ下げるのか?

この2点をふまえて、オグリキヤッ



スーパークリーク

接戦というように、内容的には余り高い評価を与えないという意見も出された。結局、スーパークリークの地力は高く評価するが、昨年のハンデ(63*)を上げるにはプラスとなる材料がないということで、昨年と同じ63*が与えられた。

スーパーの次位にくるのはヤエノムテキ、オサイチジョージの2頭。

ヤエノムテキが勝った天皇賞(秋)はメンバーの層も厚かつたし、1分58秒2というレコードタイムも素直に評価できるものという意見が出された。

レース前に放馬等のアクシデントがあった有馬記念はあるていど度外視しても、一年間コンスタントに走つたことが好材料となり、61%に決定した。オサイチジョージは、オグリキヤップ、イナリワンの二強を負かした宝塚記念の内容に高い評価が与えられた。秋の不振は残念であったが、この馬も年間を通して故障なく出走しており、ヤエノムテキと並ぶ61%が与えられた。

イナリワンは天皇賞(春)の2着しか評価の対象になるレースがなく、昨年のトップハンデ馬であり、大幅に評価を下げざるを得ないことから、フリーハンデの対象からはずしては、とい

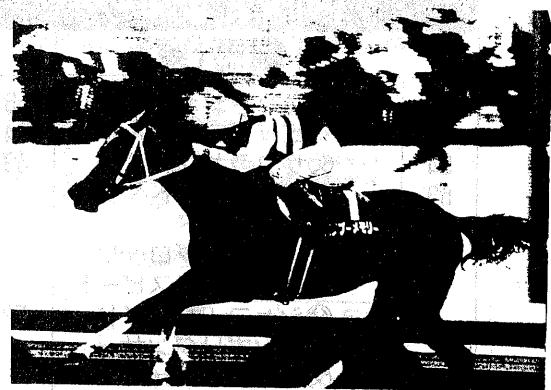
'90年のフリーハンデ

5歳以上

63	④オグリキヤップ
61	④スーパークリーク
60	オサイチジョージ
58	④ヤエノムテキ
57	④イナリワン
	バンブーメモリー
	④メジロアルダン
	オースミシャダイ
	④サクラホクトオー
	ラッキーゲラン
	カシマウイング
	スルーオダイナ
	ホクトヘリオス
	ミスター・シクレノン
	④ランニングフリー
	④カリブソング
	トワトリブル
	④ドクタースパート
	ナイスナイスナイス
	*メジロモントレー
	リアルバースデー
	カチウマホーク
	④グレートモンテ
	*④サマンサトウショウウ
	マルタカタイソン
	④ラケットボール
	*リキアイノーザン
	*マロングラッセ
	④ミスター・ヤマノ
	*メインキャスター
	ユーワフォルテ
	*レディゴシップ
	イダテンター
	*④サファリオリーブ
	*④ジムクイン
	④スノージェット
	*④ドウカンジョー
	*ニシヤマショウ
	*④ファンドリポポ
	④ロングムテキ

(計40頭)

パンツーメセリー



以上G Iウイナー3頭と次位評価の馬とは差が開いた。

ナルシスノワールはスワンSで見せたしぶとい先行力が評価されたが、昨年のミスティックスター（マイラーズC、CBC賞）には及ばないと判断で58%に決定した。

ホクトヘリオスは中山記念（千八百メートル）勝ちよりもマイル戦の東京新聞杯（G III）の方が内容的により強さを感じさせるものであり、総合評価よりも1%上の57%が与えられた。

56%にはシンウインド（京王スプリ

場

3歳馬

リンドシェーバー イブキマイカグラ 55キロ。

'90年の3歳競馬を語る上で欠かせないのが、札幌競馬場の芝コースの開設だ。例年だと函館開催からデビューする馬が札幌と函館に分散し、とりわけ距離部門でのこの馬の評価が高すぎるのではないか？」という指摘も出たが、この4%差はこの馬自身の短距離スペシャリストの証明として妥当であるという意見でまとまった。

今年、この部門で大躍進をとげたのが6歳牝馬のパッシングショットである。CBC賞でバンブーメモリーを破り、秋のマイルチャンピオンシップでは鮮やかな末脚をくり出し、古馬牝馬としてはタカラステール（86年以来のG Iウイナー）に輝いた。スプリンターSでは出遅れが致命傷となつたが、バンブーメモリーを上回る上がりタイムでよく追い込んできていた。この部門の牝馬としては、ダイナアクトレス（88年）以来の大台、61%に決定した。

プリントーズSでの1分07秒8という日本レコード勝ちは見事であった。昨年と同じ64%がこの馬に与えられた。また、総合部門（60%）に比べて、短距離部門でのこの馬の評価が高すぎるのではないか？」という指摘も出たが、この4%差はこの馬自身の短距離スペシャリストの証明として妥当であるという意見でまとまった。

今年、この部門で大躍進をとげたのが6歳牝馬のパッシングショットである。CBC賞でバンブーメモリーを破り、秋のマイルチャンピオンシップでは鮮やかな末脚をくり出し、古馬牝馬としてはタカラステール（86年以来のG Iウイナー）に輝いた。スプリンターSでは出遅れが致命傷となつたが、バンブーメモリーを上回る上がりタイムでよく追い込んできていた。この部門の牝馬としては、ダイナアクトレス（88年）以来の大台、61%に決定した。

ングC）、リンドホン（スプリンターズS 3着）、センリョウヤクシヤ（阪急杯）の4頭が並んだ。

55%以下の中馬に関しては別表を参照にしていただきたいが、この部門ではオーブン特別の勝ち馬もハンドの対象になっている。なお、4歳馬の中で最も高い評価を得たのが、ニュージーランドトロフィー4歳Sで高い資質の一端を見せたミュージックタイムを、55%に評価して、クリスタルカップ勝ちのダイタクヘリオスを54%にした。

リンドシェーバー 55キロ。

成績を上げている。重賞勝ち馬だけでもノーザンドライバー、リンドシェーバー、ビッグファイト、スカーレットブーケの4頭、これにサクラヤマトオーヤクモアサカゼを加えると、函館

中でもリンドシェーバーが朝日杯3歳Sと阪神3歳Sの東西G I戦とともにレコードで決着したことも挙げない訳にはいかないだろう。昨年の11のレコード更新ラッシュには数々で及ばないものの、質的には互角かそれ以上の中身の濃さである。

中でもリンドシェーバーが朝日杯でついにマルゼンスキーの14年前のレコードを更新したのは驚異的だった。昨年の朝日杯でアイネスフウジン（55%）がタイレコードをマークしただけで話題となつたほどだから、更新となるとトップハンデは当然というのが全体のムードだ。さすがに負け知らずだったマルゼンスキーの57%には届かないが、近年ではサクラホクトオー以来の56%という高いハンデがついた。ともあれ外国産馬のリンドシェーバーにクラシック出走権がないのは残念だが、ニュージーランドトロフィー4歳Sを目標にローテーションを組んでいるようなので、そこまでのレースぶりが注目される。

代わってクラシック候補の筆頭として期待がかかるのは、阪神3歳Sをレコード勝ちしたイブキマイカグラとなるだろう。とはいっても、リンドシェーバーのインパクトがあまりに強烈なため、

デビュー組よりも素質馬が揃つた感がある。

また今年は、例年以上に内国産種牡馬の活躍が目覚ましい。リーディングサイヤーの3歳馬部門ではベスト10のうち5頭を内国産種牡馬が占め、重賞勝ち馬こそ出ていないが、3位のシンボリルドフ、7位のサクラユタカオーなど新種牡馬の活躍も目立つている。特にシンボリルドフは、新種牡馬ランキングでトップに立つ活躍ぶりである。

リンドシェーバー



リンドシェーバー

イブキマイカグラ



デビュー組よりも素質馬が揃つた感がある。

また今年は、例年以上に内国産種牡馬の活躍が目覚ましい。リーディングサイヤーの3歳馬部門ではベスト10のうち5頭を内国産種牡馬が占め、重賞勝ち馬こそ出ていないが、3位のシンボリルドフ、7位のサクラユタカオーなど新種牡馬の活躍も目立つている。特にシンボリルドフは、新種牡馬ランキン

'90年のフリーハンデ

短 距 離

65	④オグリキヤップ バンブーメモリー
64	*④パッシングショット ナルシスノワール
61	ホクトヘリオス
58	*シンウインド センリョウヤクシャ
57	リンドホシ
56	④ルイテイト エーコーシーザー
55	マキバサイクロン
54	*④ミュージックタイム メジロワース
53	*カッティングエッジ ケープポイント
52	④ダイタクヘリオス エーコートランス
	*④コガネターボ
	*ストロングクラウン
	④ダイワダグラス
	*④ヒカルダンサー
	④ホリノウイナー オラトリオ
	*スプライトパッサー
	*ニフティニース
	*④ムーンセレナード
	*④ヤマノタンボポ
	(計27頭)

う意見も出たが、スーパークリークに直線で内薄した天皇賞のレース振りが、ステイヤーとしての高い資質を示し得たとの評価で、60%に決定した。

以上、4頭のフリーハンデが決定したところで、改めてオグリキヤップのハンデが論じられた。

「有馬記念は、当日の900万下のレースに比べても0秒6もタイムが劣るもので、これがオグリキヤップに非常に有利に作用したのではないか。内容的には高く評価できないと思う」

「しかし、一昨年やはりオグリキヤップが勝ったレースに比べて、今年の有馬記念が内容としてそう劣るものでは思わない。時計は良くないが、超スピードのため、オグリ自身、上がり35秒台前半の脚を使つている。4歳強を含めて、メンバー的にはたいへん充実したレースであつたと思うし、それに勝ったオグリキヤップの底力は素直に評価しても良いと思う」

「サクラユタカオー（'86年）はG1勝ちはひとつだが、毎日王冠、天皇賞（秋）の連続レコード勝ちが評価されて63%だつた。当時の古馬陣に比べて、今年の方が層は厚いし、特に6歳馬は史上に残る高レベルだと思う。そこでGI

2勝のオグリキヤップには64%を与えても良いのではないか」

「いや、今年に限っていえば、古馬のレベルは例年並み、というところではないか」

「オグリキヤップは天皇賞（秋）、ジャパンカップの負け方が悪すぎる。宝塚記念にしても2着とはいえ、勝ったオサイチジョージに直線で離されるばかりか、ヤエノムテキにも詰め寄られ、決してほめられる内容ではない。一方、スーパークリークの天皇賞（春）のレース振りは着差以上に『強さ』を感じさせるものがあった。両馬並びの63%が妥当ではないだろうか」

再び議論は白熱した。オグリキヤップをスーパークリークと並びの63%に置くか、ひとつ上の64%とするか。

オグリキヤップの引退レース有馬記念が見る者の心を打つレースであつたことは誰もが認めた。そして、歴代最重賞12勝の中央競馬タイ記録、それらの偉業をふまえた上で今年のオグリキヤップには63%が妥当という結論が出だつた。それは、フリーハンデとは本来、その年その年に示し得た能力で判断す

オグリキヤップのハンデが63%に決定し、議論は前記5頭以下の馬の評価へと移つていった。

バンブーメモリーのG1勝ちスプリントーズSは主に短距離部門で評価することとし、ここでは高松宮杯（GII）で一瞬にして他馬を差し切つた末脚、天皇賞（秋）3着の善戦を高く評価し、

56%にはランニングフリー（AJC杯2着）、ミスター・シクレノン（阪神大賞典2着）、カシマウイニング（天皇賞・春3着）、ホクトヘリオス（中山記念、スルーオーダイナ（ダイヤモンドS）の古豪5頭がランクされた。

55%以下の各馬については別表を参考照していただきたい。

短距離

オグリキヤップに65キロ。 バンブーメモリーは64キロ。

本年度から、千二百回のスプリンターズSがG1レースに昇格した。また

海の向こうイギリスでは栄えある年度代表馬の座にスプリンターのデイジャ

ーが輝いた。内外ともに短距離馬の地位は年々向上している。

日本の場合、現在マイル戦とスプリ

ンターレースは、ほぼ同一メンバーで行わ

れているが、やがて、マイラーとスピードハンデが与えられた。ヤエノムテキ・オサイチジョージといった強敵を寄せつけず、1分32秒4のレコードタイムで駆け抜けたレース内容は立派の一言に尽きる。また、今年のオグリキヤップ自身にとつても、安田記念がベ

ストレースであつたろう。血統面からいっても、本来はマイルがベストの馬

イナリワンと同じ60%が与えられた。

メジロアルダンは天皇賞（秋）のアタマ差2着でその実力を改めて見せつけたが、有馬記念での惨敗、今年未勝利であることが大きなマイナス材料となり、昨年より2%減の58%に決定した。

オースミンシャダイ（阪神大賞典、日経賞）、ラツキーゲラン（毎日王冠、函館記念）サクラホクトオー（AJC杯）の3頭はそれぞれに格の高いGIIレースのウイナーであるが、メジロアルダンと同列に並べるには異論があり57%になった。

56%にはランニングフリー（AJC杯2着）、ミスター・シクレノン（阪神大賞典2着）、カシマウイニング（天皇賞・春3着）、ホクトヘリオス（中山記念、スルーオーダイナ（ダイヤモンドS）の古豪5頭がランクされた。

55%以下の各馬については別表を参考照していただきたい。

昨年、この部門にすい星のよう登

'90年のフリーハンデ

3歳馬(東)		3歳馬(西)	
56	④リンドシェーバー ビッグファイト	55	イブキマイカグラ ※ノーザンドライバー
55	④サクラヤマトオー	54	※④イソノループル
54	④ダイナマイティダディ	53	※スカーレットブーケ
53	④ブリザード カリスタグローリー	52	④④ソーエームテキ ④トウカイティオー
52	④サクラハイスピード ④シャコーグレイド シンボリダンサー	51	④ニホンピロアンデス イイデサターン
51	④シンボリフォルテ ④スタビライザー ※ブルーベイブリッジ ※④ヤクモアサカゼ レオサイレンス レガシーオブゼルダ	50	※エミノディクタス ④コガネパワー ゴールドストリート ※タニノメッセージ
50	※④イクエスター エディター カミノスオード ※④キタノオゴジョ ④ゴルギアス ※ゴールドナゲット ④ジングウオー ※ストロングカイザー ※④バイナップルスター バッキンガムシチー ④フジノギャロップ ※④フラッシュシャワー マネーワン ※ミスタイルンド アルハンブラハイ ※④イナズマクロス ※④ウィンザーローズ ④エドノトウコウ ※カチタガール カネハボマイ サクラグットオー		④④ダンディアンバー ※ティエムリズム ④ハギノサキガケ マチカネヒオドシ マルブツフォード ※ミルフォードスル ④④イイデシビア ④イイデセゾン エルサルバドール ※カクテルドレス ※④トーワディステニー ニシノレミー ④バンブーパッショ ミスタースペイン メイショウホムラ ヤマニンエンブレム ※レッツビギン ④アサキチ ※④キクノサンシャイン ※④グランドウイナー グレートアドマイヤ ※④シスタートウショウ ストロングホーラー スナークホワイト ※タイアクトレス ④ダイイチオグラ ④④ダンディウエスト ④チアズモアー ※ツインヴォイス ※トウカイリラ ニホンピロラック ④ヒミノオータカ ブレエトワール ※④ポートマリヤ ホーマンフィリオ ④マチカネオトコヤマ マヤノディッパー ④マルブツホマレオー
	(計50頭)		(計50頭)

同じGI勝ちといつても一枚評価が下がるのは致し方ないところだ。口向きの悪さなどの課題も抱えているが、器の大きさも備えているということことで、昨年のアイネスフウジンと同じ55話ですんなり落ち着いた。

札幌デビューながら新潟3歳Sを勝ち、続く京成杯3歳Sも1着。そして朝日杯ではリンドシェーバーの僅差2着だったビッグファイトも、その実績からイブキマイカグラと同等の55*。で異論はなかった。ただし今後を考えると、距離延長に関して疑問符を投げ掛けれる意見もあつたことは事実である。

阪神3歳Sを除けば重賞勝ち馬が牝馬ばかりという関西に比べて、関東の方が見解で、その代表が秋から暮れにかけてオープン特別を3連勝したサクラヤマトオーデ。重賞での実績がない

馬ばかりという関西に比べて、関東の方の見解で、その代表が秋から暮れにかけてオープン特別を3連勝したサクラヤマトオーデ。重賞での実績がないだけビッグファイトから1着。軽い54*。となつたが、大物感溢れるレース内容に対する評価は高い。

牝馬では、唯一のGII勝ちを記録した関西のノーザンドライバーが文句なくトップハンデに推され、その下に札幌3歳Sの勝ち馬で関西の3歳牝馬Sでも2着したスカーレットブーケと、そのスカーレットブーケを3歳牝馬Sで破つたイソノループルを同格で並べ

必然的にイソノループルとスカーレットブーケは52*となる。ところが昨年のコニーストンとレガシーウェイズがともに53*、その比較からするとイソノループルとスカーレットブーケには53*をつけたい。そうなるとノーザンドライバーが押し出される形で54*になつてしまふ。これがひつかつた誤だ。

今年の3歳牝馬の中ではすば抜けた素直な気性と成績の安定性を加味して、

結局のところノーザンドライバーの54*が決まった。

函館3歳Sの勝ち馬ミルフォードスルーに関しては阪神3歳Sの3着があるものの、デイリー杯3歳Sと3歳牝馬Sで前記3頭に大敗を喫しているため52*、そして関東のブルーベイブリッジも重賞級の相手との対戦がないことから52*となつた。

以下の馬については別表をご覧いただきたいが、今年は昨年より東西ともに3頭減の50頭ずつをハンデの対象にしている。

参考資料

過去10年の フリー漢字

2部門=3歳東西、5歳以上

3歳(西)		3歳(東)		5歳以上		
84年	54 53 52	ダイコトツゲキ タニノブーク トウショウレオ ニホンビロッキー ダイナシユベール ニシノバルカン バトリオット バンブーアステア マルヨフライド ライフタテヤマ ラッキーオカメ	55 54 53	スクラムダイナ エールブス シリウスシンボリ ダイナシユート ウエスタンファイブ サクラサニーオー サクラユタカオー ビングチムール フラックスキー ^ト ロードキルター サガミティオー サクライチモンジ サンフィーバー ^ト シンボリカノープ タカラスチール トウショウサミット リキサンワイス	66 64 62 61 60 59 58	カツラギエース ミスターшибー ^ト ニホンビロウイナー ^ト モンテファスト ハッピーブログレス テュデナムキング ホリスキー ^ト サンオーライ スカコバン ハシローディー ^ト ミナガワマンナ ^ト ローラーキング
83年	55 53 52	ロングハヤブサ トアファルコン マーサレッド ヤマノスキーラ キタヤマサクラ ダイアナソロン トウホーカムリ ドミナスローズ パワーシーダー ^ト ファイアーダンサー ホウシュウカサン マックスドリーマー ^ト マルカサーベン ロングキティ ^ト ワッカオー	55 54 53 52	サクライトウコウ ハーディビジョン シンボリルドブ ^ト スイートソフィア ^ト ビゼンニシキマ リキータ オンワードシェル ^ト コンラートシンボリ ^ト シーブラック ^ト スズバレー ^ト ニッポースワロー ^ト ハツノアモイル ベルレンケル ^ト リキサンパワー ^ト リクビクトリア ^ト	63 61 60 59 58	アンバーシャダイ キョウエイプロミス ヒカリデュール ^ト ハギノカムイオー ^ト ホリスキー ^ト ミニガワマンナ ^ト エイティートショウ ^ト オーバーレインボ ^ト カズシグ ^ト カツアール ^ト タカラテンリュウ ^ト ミスラティカル ^ト メジロティターン ^ト メジロファントム
82年	55 54 53 52	ダイゼンキング ニホンビロウイナー ^ト オオショウハーレー ^ト シャダイソフィア ^ト マックスファイア ^ト メジロモンスニーカー ^ト ルーキー ^ト エリモタイヨー ^ト カツラギエース ^ト サンエムヒーロー ^ト タケノヒエン ^ト フルータイヨー ^ト ホールドナムラ ^ト エロープリボン	54 53 52	ニシノスキーラ ダイナカール ^ト ニアリングパワ ^ト ドウカンヤシマ ^ト ビンゴカンタ ^ト ウメノシンオー ^ト キングバシフィック ^ト スティールアサ ^ト スピードライ ^ト フルーダーバン ^ト ミスター ^ト ミヤコオーダス	64 63 61 60 59 58	モンテブリンクス ^ト ヒカリデュール ^ト アンバーシャダイ ^ト メジロティターン ^ト カズシグ ^ト サンエイソロン ^ト エイティートショウ ^ト カツアール ^ト サクラシンゲキ ^ト スイートネイティブ ^ト ミナガワマンナ ^ト
81年	54 53 52	サルノキン ^ト エリードエーティ ^ト エリモロー ^ト ホクトマツシマ ^ト カノウホマラ ^ト シルクテンサンオー ^ト スナークアロー ^ト センターモア ^ト ツキノトウショウ ^ト ニシノノーサン ^ト ファンドリルビー ^ト ヤマノシラギク ^ト ラッキーウルフ ^ト カテンザン	55 54 53 52	ホクトフラッグ ^ト イーストボーライ ^ト トウショウベガサス ^ト コウチオウシショウ ^ト ニシノエトランゼ ^ト ビクトリアクラウン ^ト アイリッシュドーン ^ト キョウエイイダッシュ ^ト コンゴウサバンナ ^ト サクラサワヤカ ^ト ジバシラップ ^ト スイートトイフ ^ト セレタスポート ^ト ダイワハヤブサ ^ト ダッシングハグロ ^ト ニットウォーカン ^ト ニッポーホーク ^ト ファイブソロン ^ト モミジボーグ ^ト	63 62 61 60 59 58	ホウヨウボーアイ ^ト カツラノハイセイコ ^ト アンバーシャダイ ^ト カツアール ^ト モンテブリンクス ^ト ハギノトッフレディ ^ト キタノリキオーサ ^ト クラシシングキラ ^ト フオントース ^ト ウエスタンジェット ^ト ゴールドスベンサー
80年	55 53 52	サニーシフレーム ^ト クリーンアトム ^ト ジョーラトリオ ^ト シンビロード ^ト スズカロード ^ト アメリカンウェン ^ト イワキダンサー ^ト キタノコマヨシ ^ト シンリキベア ^ト タイセイハヤテ ^ト ニホンビロハイデン ^ト ネーハイフォルティ ^ト ハッピーブログレス ^ト パンプトンハーレー ^ト ヒロノワカコマ ^ト フジヤマテスコ ^ト フェノコマンド ^ト マーブルトウショウ ^ト ミヤジヒローラ ^ト リュウゴノヘ ^ト リードワンダー ^ト	54 53 52	タケノダイヤ ^ト テンモン ^ト ビッグディサイア ^ト キンセイパワー ^ト ドロキヒボウ ^ト ヘーゼルブロンド ^ト アカネハチマン ^ト アローハネムーン ^ト カットップエース ^ト クリアートウショウ ^ト サガミハヤテ ^ト サクラスマイル ^ト サクラノボル ^ト サンエイソロン ^ト シャダイコスモス ^ト スズタバ ^ト スーパー ^ト タカギショウ ^ト テンコウキングア ^ト ベルエ	61 60 59 58	カネミノブ ^ト ニチドウタロ ^ト カツラノハイセイコ ^ト ブリティキヤスト ^ト カネミカ ^ト サクラショウ ^ト ニチドウアラシ ^ト グレートタイタン ^ト シルクスキー ^ト シーピークロス ^ト テルテンリュウ ^ト バンブントンコート ^ト メジロファントム ^ト リンドブルパン ^ト

3歳(西)		3歳(東)		5歳以上	
89年	55 54 53 52	ヤマニングローバル ^ト コガネタイフ ^ト ニーストン ^ト ダイカツリュウセイ ^ト タクヘリオス ^ト ツルマルミタオーレ ^ト ガシワイス ^ト イチヨシロマン ^ト インター ^ト エスアルビーロー ^ト オースミロッヂ ^ト グランドゴールド ^ト ダイイチオイシ ^ト ニチドウサンダー ^ト ハギノハイタッチ ^ト アグタセレード ^ト	55 54 53 52	アイネスフウジン ^ト ブリミエール ^ト カムイ ^ト クロスキャスト ^ト サクラエス ^ト ドライビングモール ^ト アサヒバシイオン ^ト チョウカイエース ^ト ハシケンシロウ ^ト マイネルグランツ ^ト マイネルハイル ^ト メジロライアン ^ト ヤマタケサリー ^ト	65 64 63 60 59 58 57
88年	54 53 52	ラッキーゲラン ^ト アイドルマーニ ^ト サンビーナ ^ト シャダイカグラ ^ト タニノターゲット ^ト ダンディアポロ ^ト ナイスナイスナイス ^ト	56 54 53 52	サクラホクトオート ^ト ドクタースパート ^ト サザンビーナ ^ト クラムトライ ^ト ゴーゴーキングラ ^ト スダビ ^ト ブリマヨ ^ト マイネルムート ^ト ミヨノゴールド ^ト	68 67 66 65 64 63 58
87年	56 53 52	サッカーボーイ ^ト ダイタクロンシャン ^ト ディクターランド ^ト エイシンビエン ^ト クララトウショウ ^ト スリーリバティー ^ト スルーオベスト ^ト ニシノカブト ^ト ファンドリテクター ^ト プリンセススキー ^ト ポットナボレオン ^ト ラガーブラック ^ト	55 54 53 52	サクラチヨノオーグリンモリ ^ト スイートローザンヌ ^ト コクサイトリブル ^ト シノクロス ^ト ツジノショウ ^ト モガミナイン ^ト アイノマーチ ^ト イサオチャイルド ^ト カゲマジンテン ^ト ジンテンボーリオ ^ト マイネルロジック ^ト	63 62 61 60 59 58 57
86年	54 53 52	ゴールドシチー ^ト ダイナサンキュー ^ト サンキンハヤテ ^ト ドウカンジヨー ^ト ファンドリスキー ^ト ダイカツケンホウ ^ト タケノコ ^ト マーリーマックススピューティ ^ト ヤマニアーテン ^ト	54 53 52	サクラロータリー ^ト ホクトヘリオス ^ト メリーナイ ^ト コーズラバン ^ト ウインホイッスル ^ト ガルダンサー ^ト キリノトウ ^ト クルハート ^ト スバーファントム ^ト ティアドーター ^ト チノルーラー ^ト ハセベルテックス ^ト マイネルダビ ^ト レオテンザン ^ト	63 62 61 60 59 58 57
85年	54 53 52	カツラギハイデン ^ト ノトバーソ ^ト ヤマニンフルアルコン ^ト キヨウワシンザン ^ト エドノハヤテ ^ト カリスタカイザー ^ト ダイナカンバリーチ ^ト ヨノマツハギ ^ト ハギノビジョウフル ^ト ファイブホマレ ^ト レイホーソロン ^ト	55 54 53 52	ダイシングブキ ^ト ダイナアクトレ ^ト メジロラモーヌ ^ト エドノハヤテ ^ト カリスタカイザー ^ト ダイナエイコーン ^ト アサカフオントン ^ト アサクサバリエンテ ^ト キヤニオンシロー ^ト サクラモエオ ^ト シンボリルドフ ^ト ニホンビロウイナー ^ト ギャロップダイナ ^ト スカコバン ^ト サクラガイセン ^ト ステートジャガ ^ト ワインザーノット ^ト スズカレード ^ト ニシノライテン ^ト	70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58